



「篠山市ファミリーサポートセンター」の活動について、同センターのアドバイザー、協力会員の明山さん、依頼会員の古屋さんにお話をうかがいました

人が好き まちが好き

街かど Report

レポート



そのだ まい 園田 舞さん (大山下) リポーター

地域ぐるみの子育てで 篠山市ファミリーサポートセンター

地域で広める子育ての輪

まず、「篠山市ファミリーサポートセンター」の概要をご紹介します。同センターは、平成17年8月に市の委託を受けた篠山市社会福祉協議会で開設され、間もなく2周年を迎えます。子育ての応援をしたい方(協力会員)と子育ての応援をしてほしい方(依頼会員)が会員に登録。互いに子どもを預けたり、預かったりし

て地域ぐるみの子育てを行います。

会員数は、「協力会員」28人、「依頼会員」69人、そして子どもを預かったり預けたりする「両方会員」21人。昨年は延べ215回の利用がありました。同センターでは、初めて子どもを預けられる依頼会員の不安を取り除き、両会員同士の親ほくと交流を深める目的で、毎回楽しい催しを企画。月1回、和やかな雰囲気の中で交流会を開かれています。

アドバイザーの林直美さんと小島幸子さんは、「依頼会員の皆さんには心身ともに余裕をもって子育てできる支援を行い、協力会員には社会参加の場の創出につながればと思っています」。そして、「この活動が将来にわたって、応援された側も応援する側になっていただけると、そんな地域の力で助け合う子育ての輪がさらに広がっていくことを期待しています」と熱い思いを話されます。

地域ので助け合い

同センター開設当初からの協力会員である明山政子さん。何か地域の皆さんの役に立てることはないかと考えられ、「ご主人の後押しや協力もあって会員となられました。現在も楽しみながら活動を続けられている明山さんですが、「長い間、子育てから離れ不安な気持ちもありました」と会員当初を振り返られます。続け

て、「わたしたち協力会員に共通していえることは、子どもが好きなことです」と話されます。

わたしが、明山さんのお宅を訪ねた6月26日、依頼会員の娘さん古屋花歩ちゃん(4歳)と明山さんのお孫さん悠太ちゃん(1歳11カ月)と一緒に砂場でお山をつくったり、しゃぼん玉やブランコをしたりして楽しく遊んでいました。子どもたちを見守る明山さんは、「子どもからパワーをもらっています」とにっこり。また、同センターについては、「子育ての悩みなど、相談ができることもファミリーサポートセンターのよいところ。子育てに行き詰まったとき、保護者の皆さんは一人で悩まず、地域の力を借りてみてはいかがですか」と話されます。

子育ては決して一人ではない

花歩ちゃんのお母さんで依頼会員の古屋智子さんは、英語教室を始められ、週2回の数時間だけ同センターを利用されています。利用当初は、道路に飛び出しはしないか、人見知りはないかと心配されたそうです。今では安心して協力会員の方に花歩ちゃんを預けられています。ところで古屋さんは、子育て中の知り合いのお母さんから「ファミリーサポートって利用している人いるの?」と聞かれることもあり、そ

子育てに優しい活動

今回の取材を通して、同センターの活動をわたし自身も知ることができました。独身のわたしですが、篠山にこのような制度があることを知り、何年か後に結婚して親になったときのことを想像すると、とても心強い気持ちになります。

同センターの2周年記念となる8月は、ごま名人を招いての楽しいワークショップを企画されています(詳細はP20)。子育て中の方はもちろん、同センターの活動に興味のある方はぜひ、参加されてみてはいかがでしょうか。リフレッシュも大切です。なお、同センターの活動内容など、詳細は気軽にお問い合わせください。(050-1308)へたさい。



明山さんのご主人手作りの木製ブランコで遊ぶ子どもたち 写真左から花歩ちゃん、明山政子さん、悠太ちゃん



お母さんのお迎えに花歩ちゃんにっこり